

## 国：がん対策推進計画（H24. 6～H29年度）より一部抜粋

### 第2 重点的に取り組むべき課題

#### 2. がんと診断された時からの緩和ケアの推進

がん医療に携わる医療従事者への研修や緩和ケアチームなどの機能強化等により、がんと診断された時から患者とその家族が、精神心理的苦痛に対する心のケアを含めた全人的な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケアの提供体制をより充実させる。

がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養や生活を選択できるよう、在宅緩和ケアを含めた在宅医療・介護を提供していくための体制の充実を図る必要がある。

### 第3 全体目標（平成19年度からの10年目標）

1. がんによる死亡者の減少  
（75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少）
2. 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上
3. がんになっても安心して暮らせる社会の構築

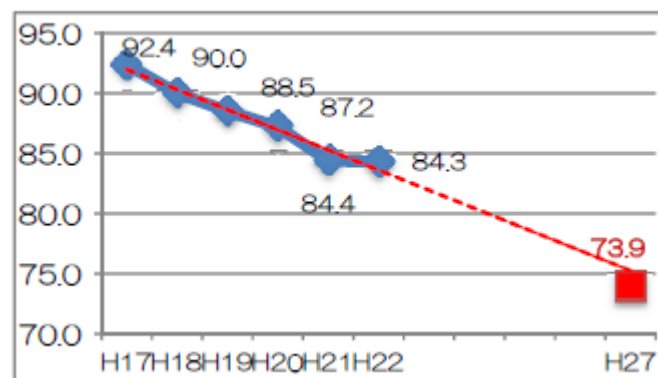
### 第4 分野別施策と個別目標

#### 1. がん医療

##### （4）地域の医療・介護サービス提供体制の構築

3年以内に拠点病院のあり方を検討し、5年以内にその機能をさらに充実させる。また、在宅医療・介護サービス提供体制の構築を目指す。

年齢調整死亡率（75歳未満）の推移（人口10万対）



## 第2次 岡山県がん対策推進計画（平成25～29年度）より 一部抜粋

### 全体目標

#### 2. すべてのがん患者とその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質(QOL)の維持向上

（略）～地域連携パスを活用した医療連携を推進するとともに、在宅における緩和ケアの充実を図ります～（略）

### 分野別施策と個別目標

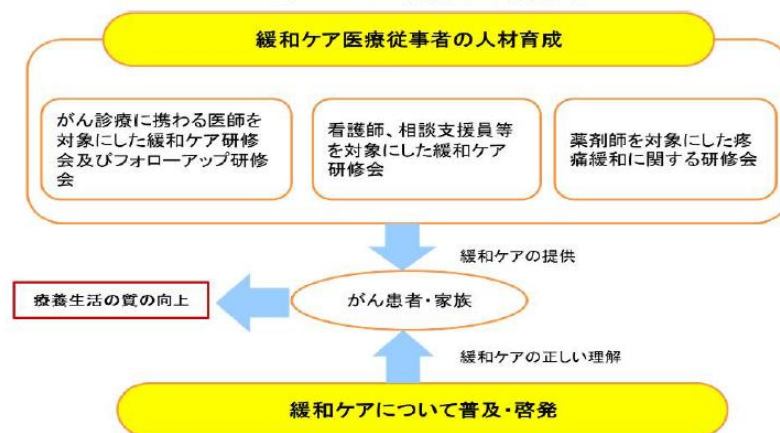
#### ④. がんと診断された時からの緩和ケアの促進

- 【今後の取り組み】...緩和ケアに携わる医師の確保と資質の向上を図るとともに、在宅で緩和ケアに取り組めるよう、在宅緩和ケアパスの普及を促進（中略）

#### ⑤. 地域における医療連携の推進

- 【今後の取り組み】...(中略)がん患者の在宅医療について、薬剤師や訪問看護・介護サービス従事者の理解を深め、多職種協働による医療連携の推進を図る（中略）
- 【個別目標】...拠点病院等とかかりつけ医との連携がスムーズに行えるよう、地域連携クリティカルパスの活用を進める（中略）

図 4-25 緩和ケアの普及体制



## 第2次岡山県がん対策推進計画（平成25～29年度）より 一部抜粋

### 分野別施策と個別目標

#### ⑥. 在宅医療（療養）提供体制の構築

- 【今後の取り組み】...がん患者の在宅医療を担う社会資源の充実を図る。多職種協働による在宅チーム医療の推進に努める。
- 【個別目標】...急性増悪時における円滑な受け入れなど在宅療養をさせる機関数の増加。自宅のほか老人ホーム等望んだ場所で最期を迎えることができるがん患者とその家族の割合の増加
- 【具体的な行動計画】（市町村、連携拠点事業実施機関の役割として挙げられているもの）
  - ➡ ● **在宅療養支援を行う関係機関が、それぞれの役割を十分発揮できるよう連携を図る**
    - 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス等の充実を促進
    - 拠点病院の相談支援センターと在宅医療連携拠点事業を実施している機関が連携し、入院時から在宅医療の選択も見据えた相談支援を実施
  - ➡ ● **医療や介護従事者間で顔の見える関係づくりを進め、在宅チーム医療の課題整理・解決についての協議及び研修会を開催し、市町村を中心とした多職種協働によるがんの在宅医療提供体制を推進**
    - 介護者負担軽減のため、ショートステイ、レスパイトケアの充実や活用を促進するとともに、健康ボランティアや町内会と協働して地域支援ネットワークの強化を推進
  - ➡ ● **住民や医療従事者に対し、在宅医療への理解や満足度の高い最期を迎えるための準備と支援についての講演会を開催**
    - 介護保険制度の適切な利用促進のため、暫定ケアプランによる介護保険サービス利用が可能であること等について、制度の周知を通じ円滑な利用を促進

# 在宅療養推進・多職種連携事業の取り組み経過

(注) 単年事業

開始年度

在宅基盤整備(人材育成)

在宅を担う職種、人材の量的増加を推進

在宅への流れを作る

(多職種連携と情報共有の促進)

職種や分野による連携障壁の解消を目指すネットワークの構築

市民の安心(普及啓発)

・市民の医療・介護のリテラシー向上の推進  
・市民が支えあう気運の醸成

H23  
年度

● 保 健 医 療 福 祉 関 係 機 関 ヒ ア リ ン グ の 実 施

H24  
年度

● 訪問診療スタート支援事業

● 岡山市における医療連携のあり方等に関する協議会開催

● 市民や医療・介護の専門機関に対する在宅医療に関する意識調査(5年ごと)

H25  
年度

● 訪問看護プチ体験事業  
● 岡山市認定在宅介護対応薬局認定事業

● 市内6福社區で多職種連携会議開催  
● ICTを活用した多職種の情報交換  
● 有床診療所の空きベット情報の提供

● 市民と専門職の在宅医療介護意見交換会(福社區単位)

● 在宅医療・介護推進方針の策定(5年ごと)

● 市民版 在宅医療・介護のすすめ作成

H26  
年度

● 施設看取り研修

● 身体・精神合併症救急連携モデル事業

● 在宅医療シンポジウム  
● 地域での出前講座事業

● 市民と専門職の在宅医療介護意見交換会(中学校区単位)

● 在宅医療・介護展示イベント

● 岡 山 市 地 域 ケ ア 総 合 推 進 セ ン タ ー プ レ オ ー プ ン

H27  
年度

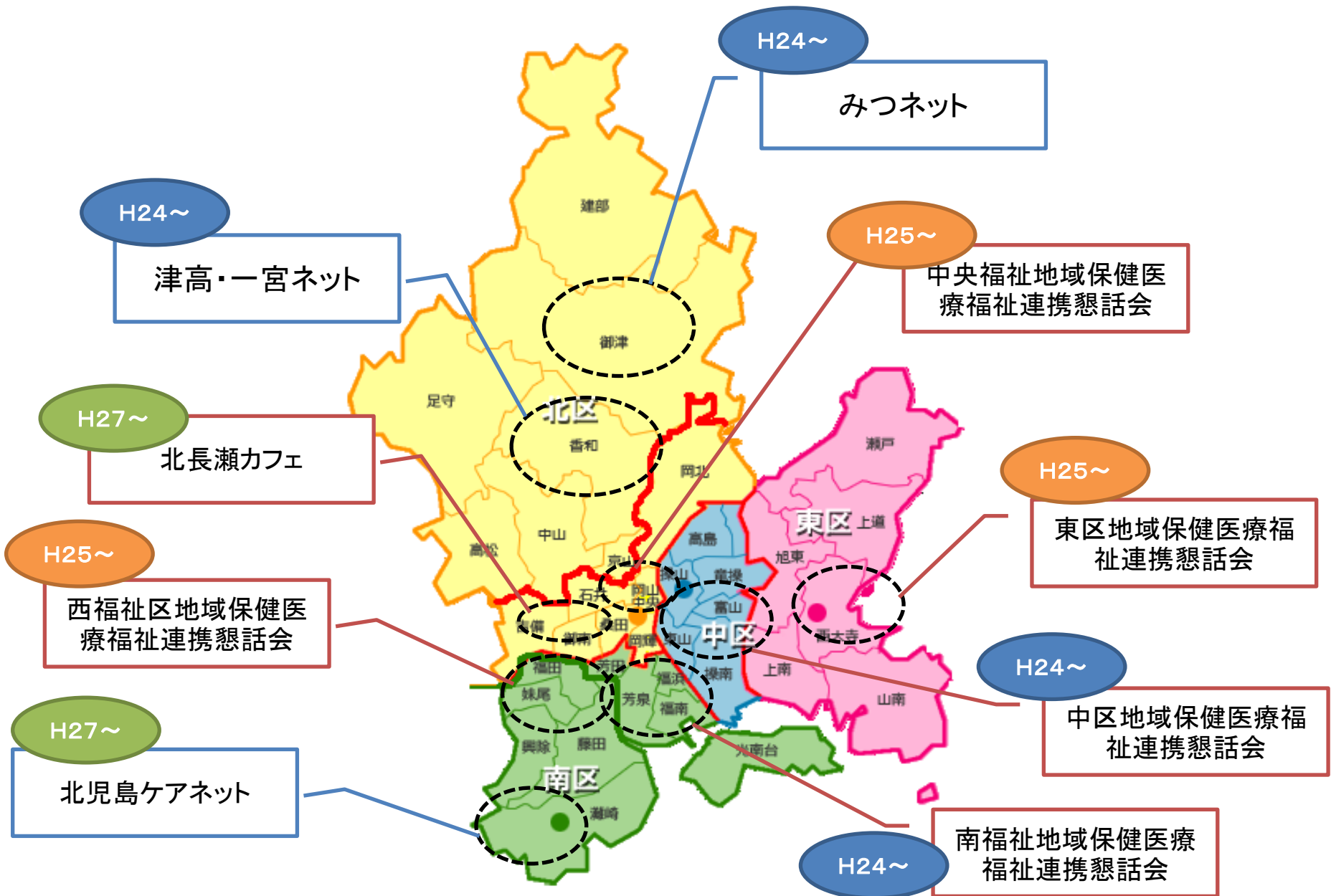
● 岡 山 市 地 域 ケ ア 総 合 推 進 セ ン タ ー オ ー プ ン

● 在宅療養支援強化研修  
● 退院調整看護師研修  
● 病院看護部長在宅医療研修

● 6福社區合同多職種連携交流会  
● 小エリアでの多職種連携会議(2か所)

● 在宅医療・介護資源マップ

# 多職種連携ネットワークの組織体の拡がり



# 各地区の取り組み(H24.4～H27.12末現在)

＊コアメンバー会の構成員：診療所医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、管理栄養士、地域包括支援センター、保健センター、地域連携室スタッフ、病院医師、退院調整看護師、行政 等

多職種 連携 会議	始動時期	コアメンバー会＊ (企画会)	多職種意見交換会 (多職種顔の見える場)		市民と専門職の在宅 医療・介護意見交換会		その他(研修・講演会等) ＊主催は様々	
		回数	回数	参加人数(延)	回数	参加人数 (延)	回数	参加人数 (延)
北区北	平成24年度	39	6	464	3	230	懇親会:4 講演会:4 病診連携会議:2	211 +α 146
中区		21	8	752	4	419		
南区南		19	10	811	2	229	懇親会:2 病診連携会議:2	302 181
北区中央	平成25年度	15	5	413	1	63	病診連携会議:8	729
南区西		16	5	526	2	189		
東区		13	5	608	1	108		
合計		123	39	3574	13	1238	21	1569



# かかりつけ医の普及啓発（実績）

- 「在宅医療・介護のすすめ」出前講座
- 市民公開講座

## 【実績】

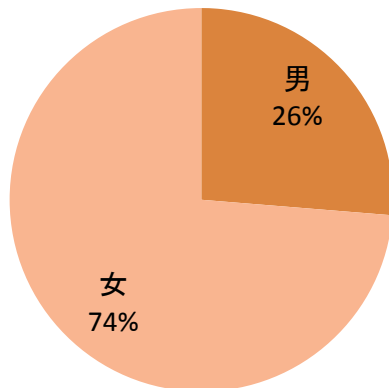
H25年度 37回実施 1116人参加  
H26年度 43回実施 1400人参加  
H27年度 48回実施 1452人参加  
(h28, 1, 19現在)

## 【実績】

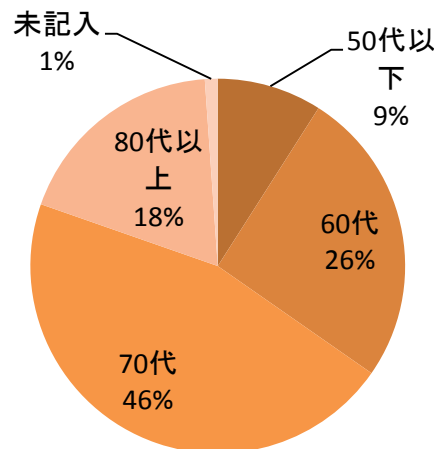
H25年度 285人参加  
H26年度 295人参加  
H27年度 254人参加

- 一出前講座アンケート結果（平成26年度実施分）

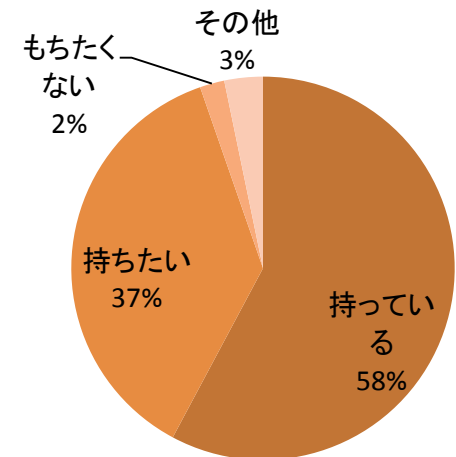
参加者の男女の割合



参加者の年代別割合



かかりつけ医を持ちたいか

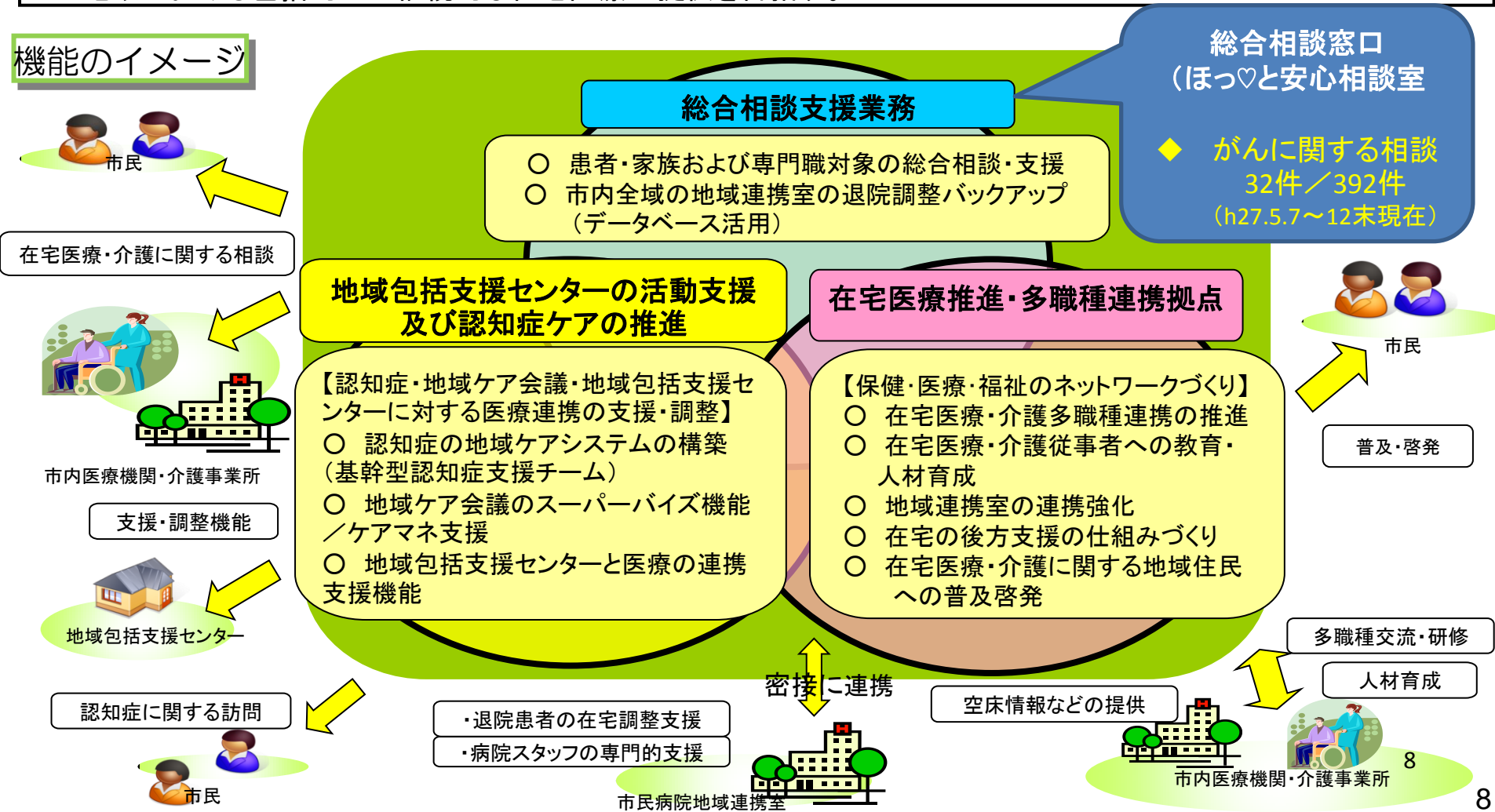


# 岡山市地域ケア総合推進センター

## 事業目的

- 病気や障害により療養を余儀なくされた患者やその家族が、安心して療養の場所を選択し生活ができるよう「医療支援機能」と、介護・福祉の相談等の「包括的支援機能」を併せ持つ総合相談窓口（地域ケア総合推進センター）を、平成27年度開設の新市民病院内に常設設置し、市民が予防・診療から介護まで切れ目ないサービスを受けることのできる仕組みづくりを推進する。
- さらに、地域ケア総合推進センターを連携拠点として、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指す。

## 機能のイメージ





## 第2次 岡山県がん対策推進計画の数値目標（一部抜粋）

### 1 ストラクチャー目標（サービスを提供する物質資源、人的資源、組織体制等）

項 目	現 状	平成 29 年度末目標
内科診療所のうち在宅療養支援診療所の数の割合	28.4% (H24.4)	30%
病院のうち在宅療養支援病院の数の割合	7.5% (H22.4)	20%
がん患者の専門的な看護を行う認定看護師数	43 人 (H24)	50 人



### 岡山市（平成27年度）

36.7%

18.5 %  
(h27.7.1現在)

31 人  
(h28.1.20 日本看護協会HPより)

### 3 アウトカム目標（サービスの結果としての住民の健康状態等）

項 目	現 状	平成 29 年度末目標
75 歳未満年齢調整死亡率	73.5 (H23)	66.5
	全国 2 位 (H23)	全国 1 位
がんによる在宅（自宅＋老人ホーム＋老健）死亡割合	8.6% (H23)	11.0%



平成23年 平成25年  
男性 103.6 男性 97.6  
女性 55.2 女性 57.3

平成26年  
12.1%

※「現状欄」の（ ）は、データの年次

※「目 標」の（ ）は、目標達成年次、年次のないものは平成 29 年度

# 10年後の岡山市の緩和ケア

## 【現状と課題】 患者(死亡)数と年齢層 / 医療の質と量

2040年まで死亡数の増加  
(2020年までが増加率MAX)

後期高齢者が過半数  
(70歳未満は減少)

施設  
緩和ケア病棟／緩和ケアチーム  
／リエゾンチーム／病病連携

在宅  
かかりつけ医の普及啓発／診療  
所医師の症状管理スキル

## 【現状と課題】 かかりつけ医の有無と介護保険サービスを中心とした チームケアの必要性で集団を区分し課題を抽出

- かかりつけ無／症状進行が急
  - ・ かかりつけ医が見つからない
  - ・ 入院緩和ケアが必要なときの病病連携

- かかりつけ医あり／症状進行が急
  - ・ かかりつけ医の症状管理スキルの格差
  - ・ かかりつけ医のキャパシティ

大多数

## 2025年をターゲットとした対策

- ・ 60代～70代前半の市民をターゲット
- ・ 自分の年齢より一回り若い医師

追加  
ACPの普及啓発

かかりつけ医の普及啓発

在宅緩和ケアの推進  
(医療の量と質の確保)

病院資源の協同利用

- ・ 訪問診療スタート支援事業の充実(症状管理スキルの向上)
- ・ リエゾンチームの検討(専門的かつ高度な対応を要す事例の支援)
- ・ 緩和ケア病床活用における病病連携

- 媒体作成

- リビングウィル冊子

H28年度～ 取り組み(予定)

- 意思表示カード

H28年度～  
モデル地域で取り組み(予定)

- 啓 発

- 「在宅医療・介護のすすめ」出前講座
- 市民公開講座
- みんなでつくる「在宅医療」地域会議
- 地域ネットワークアクションプラン策定会議(コアメンバー会) 等

【最重点】 事業名：（新）かかりつけ医スキルアップ研修（案） 事業期間：H28年度～

背景

- 2040年まで死亡数が増加。死因の第一位はがんで、その過半数は後期高齢者。
- 在宅でがん症状管理や緩和ケアに対応できる医師は、今後ますます必要となるが、現状ではキャパオーバーである。

☆これまでの取組

- 訪問診療スタート支援研修や多職種意見交換会でがんをテーマにした研修を行うことはあるが、いずれも単発実施で系統立った研修を行っていない。

☆現状と課題（論点）

- かかりつけ医の症状管理スキルが一定レベル以上であることが安全安心ながん在宅療養に欠かせない要件だが、現状は医師により格差が大きい。症状管理スキルの向上が必要。
- 専門的かつ高度な対応を要す事例の支援にはリエゾンチーム（多職種）の対応が必要。

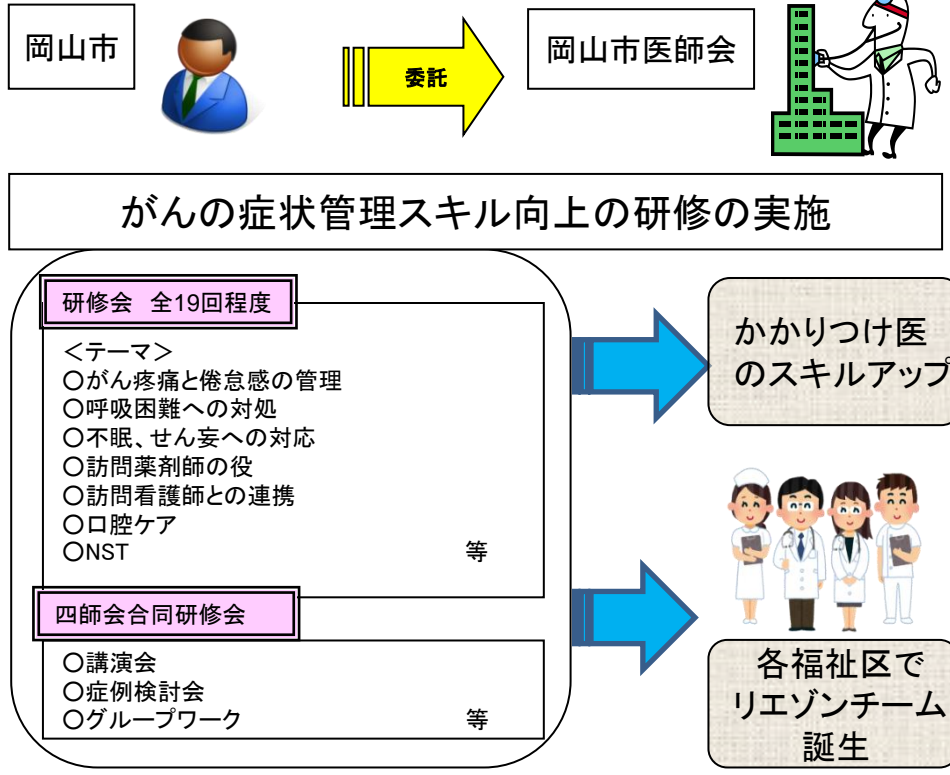
☆事業内容

- 医師と多職種に向けた在宅におけるがん症状管理に関する研修会の実施。
- 研修修了者による多職種専門チームを各福祉単位で結成。
- 四師会合同研修会の実施。

特記事項（法令等事業実施の根拠、他都市の状況）

- 岡山市がん対策推進条例
- 岡山市在宅医療推進方針（平成26～29年度）
- 介護保険法（地域支援事業）

概要（イメージ、スキーム）



（単位：千円）

年度	事業費	財源		
		国（県）	その他	一般財源
H28				
成果指標	H24年度	H 29年度	H34年度	H40年度
がんの在宅看取りが実施できる診療所の割合（％）	21.6	25	30	35